

【京都新聞賞】

未来を創る学び

相楽東部広域連合立笠置中学校 3年 柴垣 萌

「一度も誕生日を迎えられない小さいのち 年間 600 万人。」これは、私が社会科の授業で見たユニセフのポスターの標語です。世界では、生後 1 ヶ月生きられない子どもが年間 260 万人もいます。これは、日本に住む私には信じがたい事実です。なぜ、こんなにも多くの子どもたちが、幼くして亡くなってしまうのでしょうか。

世界では、貧困に苦しむ子どもたちが多くいます。十分な食べ物もなく、スラムで生活し、水道がないために、汚れた川の水を飲む子どもたち。戦争におびえ、日々不安な思いで過ごす子どもたち。学校に行くことができず、1 日中、働かされる子どもたち。そこに、私たちにとって、当たり前前の日常や人間らしい生活はありません。このような、子どもたちを取り巻く厳しい生活環境によって、大切な命が奪われていきます。彼らの生活は、時々テレビや新聞などを通して知ることができます。しかし、今までの私には、それがどれほど苦しく過酷な生活なのか、実感を伴って想像することができませんでした。

なぜなら、私たちは、何不自由なく生活することができているからです。毎日学校に行き、勉強や部活に励み、友達と楽しく過ごす家では、当たり前のようにおいしいご飯が出てきて、やわらかな布団でぐっすり眠る。私たちにとって、特に意識することのない当たり前の生活です。

人間として、このような生活を送ることは、当然の権利です。しかし今、地球上の限られた人だけしか享受できていません。とすれば、これは、決して見逃すことのできない不平等な事実です。重大な人権問題の 1 つであると言えるでしょう。

私は、社会科の授業で、「貧困の悪循環」について学びました。それは、貧困が 3 代以上続き、貧困状態の罫に陥るという意味です。親の収入が低く、貧しければ、子は十分な教育を受けられません。知識の不足は就職に不利となり、安定した給料の得られる職に就くことができません。よって、子どもも貧しい生活を強いられます。こういった悪循環が今、世界中で起こっているのです。

これらの問題を解決する 1 番の方法は、世界中の子どもたちに教育を受けさせることだと思います。子どもたちには「学ぶ権利」があります。教育を受ければ、自分たちの置かれた状況を知ることができます。「自分たちが学校へ行けなかったのはおかしい。」と問題意識を持つことができます。すると、この状況を打開しようとする動きが出てくるでしょう。このように、学校に行き、学ぶということは、「貧困の悪循環」から抜け出す大きな一歩となるはずです。

私は今、中学校 3 年生という人生の岐路に立っています。私のこれまでの学びが今、進路の幅を広げていることを日々実感しています。仲間と切磋琢磨して学び、学んだことに対して意見交流をすることは、学ぶことのおもしろさを教えてくれます。このような、学ぶことによって満たされる幸せな気持ちを、全ての子どもたちに味わってほしい。そして、1 人 1 人が自分の夢に向かって、大きく羽ばたくチャンスを得てほしいのです。

では、私が今できることは何でしょうか。それは、私自身が学ぶことです。世界中の貧困や生活の現状、国際情勢について、更に深く学ぶことが必要です。そして、彼らの望み、願いを理解し、何か行動を起こすことができる大人になりたいです。

世界では、年間 1 億 4000 万人の子どもが誕生しています。その全ての子どもたちが、貧困に苦しむことなく、豊かに生活できる、そんな未来を想像してみてください。学ぶことが、子どもたちの夢を実現し、希望あふれる未来を創っていくのだと、私は信じています。

